

# 楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.9

日時	2013年月25日
行脚先	月桂冠
住所	京都府京都市伏見区南浜町247
行事名	

## 特徴

関ヶ原の戦い(1600年、慶長5年)の後、敵対した石田光成に関係した大名の屋敷は焼き払われ、伏見の街は火の消えたようになったという。1601年(慶長6年)に伏見城が再建されるも、1624年(寛永元年)には廃城、政治の中心は大坂城に移ったため、伏見の街の発展は停滞した。

一方で1635年(寛永12年)、参勤交代の制度が発足、西国の大名はすべて伏見に逗留して行列を整え、江戸へ向かうこととなった。伏見には本陣が出来、船宿も建ち並び、各種運輸業者が業を営んだ。伏見の街は宿場町、港町として往来する人並みで賑わい、活気を取り戻した。酒の需要も旺盛となり、酒造業者が多数操業するようになった。ちょうどこの直後の1637年(寛永14年)、月桂冠(当時の笠置屋)は城下町の外濠に面した南浜界隈で創業した。1657年(明暦3年)には、伏見の造り酒屋は83軒(約15,000石)を数えるようになった。宿場町、港町としての再生により、伏見の酒は更なる発展への歩みを進めていった。

## 黒田官兵衛との関わり

伏見城下町図(月桂冠大倉記念館・蔵)。豊臣秀吉が伏見に築城した当時の城下町を表した絵図の一つ。内濠に囲まれた赤色の部分は伏見城の本丸などを含む要塞、茶色の部分は武家屋敷、白色の部分は町家となっている。武家屋敷が集まる街区の一つに、「黒田甲斐守」と表示がある。そこが黒田長政の下屋敷。

## 記録

